ばってん

事務長会報第38号
平成27年10月1日
長崎県公立学校事務長会
長崎県立鳴滝高等学校内
〒850-0011
長崎市鳴滝一丁目4番1号
電話（095）820-0056

ホテル モントセル長崎
TEL095-822-2251
長崎市筑後町4番10号

最近思うこと

会長（鳴滝高等学校）　高橋　浩二

最近、天気予報を気にするようになった。今度の週末の天気はどうかなとテレビで週間天気予報を見ると晴れになっている。「よし、大丈夫。」と気分を新たに職場へ向かう。週末には、ここ何年か急に興味を持って始めた野菜づくりが楽しみとなっている。楽しみなのは、でも、その後のビールなのかもしれない。蚊に刺されないように蚊取り線香を腰にぶら下げて、完全防備で畑へ向かう。もっぱら土作りや草むしりは私の担当で、始めた頃は「買った方が安い」と見向きもしなかった妻も収穫した野菜を見てから、何を思ったかダイエットのためなどと言いながら畑に来るようになった。土を耕し、種をまいて、水や肥料を与える。なかなか思うようにはいかないもので、途中で枯れてしまうものもあるが、たくさん実を付けるものもある。汗だくになって大切に育ててきたものが花を咲かせ、実を付けると子育てにも似た格別な思いがする。

先日、こういう機会はそうはないだろうと思い、お隣の佐賀県で開催された全国事務職員協会の大会に行ってきた。ステージのパネラーと会場との意見交換も行われた。その中で業務の効率化について質疑が行われた。会場からの意見の中に民間企業の考え方も大切だとは思うが、保護者はいつでも対応してくれる教員、学校というものを期待しており、教員も学校もそれに応えようとするといった意見があった。なかなか難しい問題だ。パネラーからは、日本では長時間労働をよしとする考え方があるが、保護者にも、いつでもではないことを理解してもらうことも必要ではないかというコメントがあった。長崎県事務長会においても重点取組事項として「業務改善の推進」を掲げて取組を進めている。やるべきことを踏まえた上で、どうせ変わらないのだからと考えることをやめるのではなく、変えていこうという強い意識を持って取り組まないと何も変わらないと思う。

これまで多くの先輩方にお世話になり、たくさんのことを教えていただいた。できるだけたくさんの人と出会い、いろいろな考え方、思いを聞くことはとても大切なことだと思う。その中から学ぶこと、反省すること、違った考え方が生まれてくる。学校での事務室の仕事は定例的な業務が多く、日々の業務に追われていく内に学校をもっと良くするためには何ができるのか、どうすればよいのかと考えることをしなくなっていないか。そうであればこそ、私たちは、後に続く事務職員の皆さんを、子どもたちの成長の過程に関わることができることを喜びとして、常に行動的で志を持った事務職員であるよう育てていかなければならないと思っている。

今、文部科学省が検討を進めている「チーム学校」がある。事務職員や専門のスタッフが教員の業務を担当し、教員は、その時間を子どもたちと向き合う時間に充てる。そして、事務職員が学校経営に参画するというものだ。定数が減り、業務は減るより、むしろ増えていく中で単純に事務職員に教員の業務を担わせるというものではないと思うが、事務職員が期待されているということに対して、これを教員の業務を押しつけられると見るか、積極的に役割を担っていくとするか、とらえ方によって大きく変わってくる。今後の文部科学省の検討状況を注意深く見ていく必要がある。

今年の4月に長崎県事務長会の会長を仰せつかった。全国事務長会の研究協議会などに参加してみると、各県とも採用の一元化などによりこれまでの流れが大きく変わりつつあるようだ。様々な課題はあるが、これまでの先輩方の思いを受け継いで、微力ながら子どもたちのために奮闘努力を念頭に力を尽くしていきたいと思っている。

そういえば、野菜づくりの他にも日々のウォーキングなど体を動かすことを心がけて続けてはいるが、すべてがビールにつながっているようだ。果たして健康のためになっているのかは疑問だが、何とか続けていきたいものだ。

「かしましおじさん」

希望が丘高等特別支援学校　末永　郁雄

今年度の退職者は特別支援学校に集中している。私の外に、一瀬（諫早東特支）清水（諫早特支）高西（虹の原特支）田川（鶴南特支）森（盲学校）…の面々（敬称略、五十音順）まさに多士済々（？）である。

特別支援学校事務長会の送別会で、昨年度は下田さんが餞別を独り占めしていたが、今年度は送られるのが６人、送るほうが７人で餞別の一人当たりの額がかなり減るのではないかと思うと、今から心配でたまらない。

平成１２年度まで「長崎県教育関係職員録」に年齢、住所、電話番号が掲載されていたが、諫早農業高校の頁を見ると、末永、高西、清水の名前があり、皆４４歳である。あの頃は三人とも若かった。働き盛りであった。その時以来三人の交流は途切れることなく、長崎であるいは諫早、大村で、共同で酒税や間接税を納入している。飲み会だけでなく、健全なひと時をすごすこともある。

昨年の５月のことになるが、熊本県天草市で行われた「二江（ふたえ）ぐるっとウォーク」に三人で参加した。距離は８ｋｍと短いが、このウォーキング・イベントはひと味もふた味も違う。

まず、せどやと呼ばれる狭い路地を通り、たくさんある恵比寿神社を巡る。寄進のお返しとして、赤飯、がねだき（芋を揚げたもの）、お菓子、飲み物、びわ、きゅうりなどが渡される。風光明媚な景色を堪能し、ゴールしたら漁船に乗ってスタート地点に戻る。

昼食は、おにぎり、やきたてのアワビ、あおさ入りの味噌汁がふるまわれる。新鮮な海産物が当たる抽選会も行われる（空クジなし）。実にユニークなイベントで、今後も三人で参加しようと話しているところである。

なんだか、ウォーキング報告書のようになったが、せっかくの縁を大切にして、楽しく笑って過ごせる時間をできるだけ共有したいと考えている。

思い出すこと

佐世保商業高等学校　福富　徹也

最初の勤務校は、福岡県の田舎の小学校である。校名を大平村立唐原小学校という。大分県との県境山国川に接するのどかな田園の中にその学校は建ち、生徒 140 人、職員 10 人の小さな学校の最初の事務職員として昭和 54 年 4 月に赴任した。

四年間の勤務の後、下宿先の中津市を離れ大村養護学校に着任してから 32 年が過ぎ、来春で定年を迎えるが、若い日々を過ごした彼の地の記憶が折につけ懐かしく思い出されてくる。

校舎は戦前の建物に改築を施した木造瓦葺平屋建で、当然事務室というものは無く、職員室の中で事務の仕事を行った。事務の内容は主に給料・旅費、共済・互助、村費予算執行に携わったが、小さな学校では事務職員とはいえ何でもしなければならず、初めてのガリ版印刷もその一つだった。

印刷機やコピー機などあるはずもなくインクで手が黒く汚れる作業は本当に難しく、その悪戦苦闘の最中、「先生、どこから来たん？なんしよんのんで？」と明るい声が耳に入ってきた。６年生の丸坊主たちだった。思わず佐世保弁を交えて答えると、言葉がおかしいと笑われる。こっちも彼らの言葉の幾つかが分からない。

このやりとりがきっかけで彼らからやがて「福富あんちゃん」と呼ばれるようになるのにさして時間はかからなかった。「オヤジ」、「マーシャ」「ジョー」、「ノビキ」と呼び合う 4 人の仲間と親しくなり、仕事も徐々に覚えつつ、学校にも慣れながら社会人としての新しい生活が開けていった。彼らは今年で 48 歳、もう中年だ。今も交信が続いているが、私の心の中の彼らはいつまでも６年生の笑顔のままで年をとらない。

さて、夏になるといつも懐かしく思い出す風景がある。ある夏休みの昼下がり、生徒がいない教室の廊下に沿うガラス戸を外し、目前に広がる青々と茂った稲の穂先をさやかに渡る風が微かに草いきれを伴って、間口を吹き抜けていく中、廊下の板張に敷いたゴザに座り、校長先生以下みんなで車座になって井戸水で冷やしたスイカを食べた、あの夏の日が青空と白い雲と光に溢れた風景として一枚のスライド写真のように透明な印象をもって心に浮かんでくる。そして、この風景も彼らと同様、少しも色褪せない。

「現在」は年齢とともに速さが増し、シラーの詩のように矢のごとく早く飛び去る。しかし静かに立つ過去の中の辛いことや、あの小学校勤務の 4 年間が今の自分を作ってくれたことを私は忘れない。

新任事務長として今思うこと

大村工業高等学校　鹿島　一雄

４月から大村工業高校に勤務しております。

昨年までは、競技力向上対策課に在籍し、「長崎がんばらんば国体」という、大事業に関わることができ、また、多くの感動の場面にふれ、本当に自分は幸せ者だと思う気持ちでいっぱいでした。

おかげさまで、悲願の天皇杯獲得を達成することができ、これも学校現場の協力はもとより県民の皆さんが総力を結集して取り組んだ結果が成功につながったものと心から感じておりました。

さて、私、現場は 19 年ぶりで、以前とは仕事の中身もやり方も大きく変わっており、赴任当初は新任事務長というより

新任事務職員といった心持ちで、仕事に翻弄されていました。

一番の驚きはやはり学校の変化でした。実は現場は 19 年ぶりと申しましたが、以前の学校も大村工業高校でした。つまり再び戻ってきた感じになったのですが、この間に管理棟、実習棟等の主な校舎はすっかり新しくなり、また生徒も以前とは違う学校の生徒（昔はやんちゃな生徒が多かった）のように挨拶や身なりがきちんとしており、生徒の問題行動等も激減していました。

本校のスポーツ面での活躍はすでにご承知のとおりですが、加えて就職率の高さや資格試験の高い合格率等で人気があり、志願倍率も高い数字を維持しております。在校生も大工生としての誇りを持って、日々勉学にスポーツにいそしんでいます。

何か自校の宣伝ばかりみたいになってしまいましたが、ここまで築いてきた先輩事務長先生方の努力を無にすることがないよう、さらに本校の歴史と伝統を進化させるべく、本校で学ぶ生徒たちの教育環境を整えていくことを第一に考えて仕事をしていきたいと思っています。

これからもいろいろと教わることばかりですが、よろしくお願いします。

新任事務長として思うこと

佐世保西高等学校　今村　伸郎

佐世保西高校に赴任して、はや５ヶ月がたちました。西高は、今年で創立５２年目を迎え、進学実績はもちろん、ソフトボールがインターハイで優勝するなど部活も活発な学校です。

学校にも慣れ、今でこそ落ち着いて書類等を見ることができるようになってきていますが、４月当初は県教委への調査回答、育友会会計の決算や総会の準備等でバタバタと仕事に追われていました。４月も末になり、長崎市で開催された春季事務長会が終わったあと、以前自分が部下として仕えた退職事務長さん方数名に挨拶に行き、西高での状況等について報告をしました。

みなさんからは、かつて自分が事務長のとき受けた地域の方からの学校への厳しい要望やその対応方法、ＰＴＡ総会での保護者からの質問やそのとき回答した内容等々、いろんなアドバイスをいただきました。なるほど、こんなふうに回答すればいいんだと納得して、西高の育友会総会を迎えました。（結局、総会では特に質問はなかったのですが。）

これらのことから、今、事務長として仕事をしている自分は、これまで先輩方のいろんな指導を受けてきてここにいるのだとつくづく感じました。また、今でもアドバイスをうけることができる。自分でも贅沢だなと思います。

自分の、仕事に関する知識や技術のもとは、この先輩方と一緒に仕事をしてきて身についたものであり、これらの経験をこれから一緒に仕事をしていく事務職員のみなさんにも引き継いでいくのが自分の役目のひとつなんだろうと思っています。当然、学校では、生徒が安全で、安心して学校生活を送るための仕事をすることが一番大切なことなんですが。

しかし、そんな思いとは裏腹に、目はかすみ、肩はこり、ぎっくり腰に悩まされるなど、やはり確実に歳をとり身体は衰えていると感じています。まずは健康第一で、日々仕事に励んでいきたいと思っています。

～ブレイクタイム～

大村特別支援学校　橋　俊博

○ＰＣデポのチラシが読みにくいどころか、なんと書いているのか裸眼ではわからなくなった。
○育毛剤を頭に付けて丹念にマッサージをすると、毛髪が抜けてしまう。
○知らない間に顔中にシミがいっぱい出来ている。
○最近の歌は全然覚えないが、昔の歌なら３番までソラで歌える。
○けがをするとやたら治りにくくなっていて、どうかすると、治らずに跡が残ってしまう。
○昨日の夕食のおかずを思い出すのにやたら骨が折れる。
○良く聞こえずに、適当に相槌を打っていたら、「さっき言ったでしょ。」と言われ、大変な目に遭う。
○鍵をちゃんと閉めたか思い出せずに、何度も確かめに戻ってしまう。
○股関節が硬くなったのか、あぐらをかけなくなってしまった。
○良く聞こえなくなったのでテレビのボリュームを大きくして見ていると、「うるさい」と家族から言われた。
○どうも、仕事のスピードが遅い気がする。
いや、気がするだけなのか・・・。
○アベックという言葉を使ったら、「死語です。」と言われた。
○人を笑わかせるのが得意と思っていたが、人に笑われているような不安に陥る時がたまにある。

こんな私ですが、事務長になったからには、子供たちのために猛烈に頑張ろうと思っています。

今後とも先輩の皆様方には、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げますとともに、ご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

「本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いします」

長崎県特別支援学校長会　　会長
長崎県立鶴南特別支援学校　校長　　池田　英俊

平成１３年度から平成１７年度までの５年間、長崎県教育庁学校教育課と特別支援教育室で勤務させていただきました。当時は本県における特殊教育（特別支援教育）の充実に向けて様々な施策を検討している時期でした。そのため、平成１３年７月には、本県におけるこれからの障害のある子どもの教育について幅広い角度から研究し、その改善方策について協議を行うため「障害のある子どものための教育推進会議」が設置され、６回の協議を経て、平成１４年４月に「長崎県の障害のある子どもの教育の充実を目指して（報告）」としてまとめられました。この報告書では、（１）盲・ろう・養護学校の適正配置、（２）後期中等教育の充実、（３）重度重複障害のある子どもの教育の充実、等、５つの貴重な提言をいただきました。

その後、県教育員会においては、これらの提言を受け一つ一つの提言に対する具体策として「障害のある子どもの教育推進計画（実施計画）」を平成１６年３月１８日にお示しました。少しだけセピア色になってきた実施計画が手元にありますが、私の宝物の一つになっています。その中にひときわはっきり黄色のマーカーで示された部分があります。そこには、「五島商業高等学校（現　五島海陽高等学校）内に、鶴南養護学校（現　鶴南特別支援学校）高等部の分教室を設置：平成１７年度」、「盲学校の余裕教室を活用した鶴南養護学校（現　鶴南特別支援学校）の小学部分教室設置：平成１８年度」と記されています。

しま地区の高等学校内や盲学校内に養護学校の分教室を設置するという考えは、当時、全国的にも珍しく他県からも注目を浴びたものでした。このような結論を得ることができたのも当時の鶴南養護学校五島分教室（高等部）、時津分教室（小学部）設置を願う保護者の皆様の熱い思いと関係の方々のご協力のたまものだと再認識しているところです。

その後、各分教室の教室配置や教育課程の編成など学校スタートに向けた具体的な検討が始まりました。その中で一番難しかったのが学校を運営して行く上で最も大切なものの一つである教職員の服務や勤務、各種休暇の管理、出張や給料等への対応等、事務室関係の業務を本校と拠点校でどのように分担し運営していこうかということでした。もう十年近く前のことなので具体的な話し合いをどのように行ったかその詳細はよく覚えていませんが、それでも、当時の特別支援教育室室長が各課を回り検討のため孤軍奮闘されていたことだけははっきり覚えています。（あの時もう少し率先してこの業務関わっていたら今頃もっと県立学校における事務的処理の内容を理解できていたのに・・・・・・悔やんでも悔やみきれません。）

縁あって、平成二十五年から鶴南特別支援学校で勤務をさせていただいています。初めて五島海陽高等学校内高等部分教室（小・中学部は福江小学校内にありますが、事務的処理はすべて五島海陽高等学校にしていただいていました）や盲学校内時津分教室に出かけた時に、各部主事の先生から「事務処理については拠点校の校長先生、事務長先生、事務室の先生にいろいろと配慮していただき本当に助かっています。」と口々に私に伝えてくれ、時間の経過の重要性を改めて認識することができました。

その後、拠点校である二つの学校の事務室にお礼の挨拶に行かせていただきましたが、いずれの学校でも事務室の先生方が私に温かくて優しい笑顔を向けてくださいました。あの時の喜びは忘れることができません。分教室と拠点校の繋がりの深さをしっかりと感じることができた嬉しい瞬間でした。

今年度、鶴南特別支援学校は、五島分教室が五島分校となり、時津分教室が高等部を設置し時津分校になり、両分教室とも学校として新たな歴史を刻むことになりました。分校は一つの学校であり、分教室時代とは異なり分校の事務処理関係については本校と協力し独自で行わなければなりません。

しかし、今も二つの拠点校の事務長先生はじめ事務室の先生方にはいろいろな面でご支援いただいており、感謝してもしきれないぐらいです。新生鶴南特別支援学校は、これまでの五島海陽高等学校及び盲学校の歴代の校長先生、事務長先生はじめ事務室の先生方が作ってくださった土台も一つの大きな支えとして、新たなに素晴らしい伝統を作り上げていきたいと思っています。これまで本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いします。

編集後記

今年は、全国で大雨、台風など異常気象が続きました。本校でも大雨による法面の崩れ、台風による臨時休校等影響がありました。９月の体育祭も悪天候で延期となり、生徒たちはがっかりしているかと思いきや、２日後に晴天の下行われた時は、パワー全開で大盛り上がりでした。改めて生徒たちの若い力を感じ、元気を貰った気がします。

今回、特別支援学校長会会長の池田校長先生をはじめ、高橋会長、来春御勇退される方々、そして新任の方々へ執筆をお願いしましたところ、皆様お忙しい中快くお引き受けいただきました。心から感謝申し上げる次第です。

広報部では、「ばってん」がより良いものとなるよう御意見・御要望を受け付けております。今後も引き続き、皆様の御協力と御指導をよろしくお願いします。

（K・H）